

令和 3 年 月 日

教 育 長 様

研究コース
グループ研究 A
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)
752722
選定番号
148

代表者	校 園 名 :	大阪市立長吉中学校
	校 園 長 名 :	浅 埜 高 司
	電 話 :	06-6709-3000
	事務職員名 :	浅 野 朝 子
申請者	校 園 名 :	大阪市立長吉中学校
	職 名 ・ 名 前 :	教 頭 大 野 順 之
	電 話 :	06-6709-3000

令和 2 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 2 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	継続研究 (2 年目)
2	研究テーマ	「インクルーシブ教育の視点を見失わない学級・学年集団づくりとわかる・学び合う授業づくり」			
3	研究目的	<p>(1) 授業に関する話し合いを通して、同僚性を育む。</p> <p>(2) 個々の教員が主体的に授業力の向上に取り組む。</p> <p>(3) インクルーシブ教育は、特別支援学級に在籍する生徒だけが対象となるものではないことを理解しつつ、ユニバーサルデザイン (基礎的環境整備) を意識した授業デザインを考える。その上で、特別な支援の必要な生徒に対する配慮事項 [「障がい者差別解消法」の合理的配慮] をしっかりと検討する。</p>			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSコ・シック 10ホ・イント)</p> <p>○4月16日 (木) 午後3時30分より、研修主任より『インクルーシブ教育の視点を見失わない学級・学年集団づくりとわかる・学び合う授業づくり』について本年度の指針を示す。本年度は深化の1年として位置づけ、教職員の共通理解を図った。</p> <p>○6月15日 (月) 午後3時30分より、管理職から学級開き、学年開きに備えて教職員へ「学校教育目標」「長吉中学校生徒5原則」「学びに向かう力の育成」について長吉中学校の子どもたちに育みたい力について共有を図る。</p> <p>○教職員全員による研究授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7 月 1 日 (水) ~ 7 月 2 2 日 (水) 授業研究 (相互授業参観) 期間 I [前 期] ・ 8 月 2 8 日 (金) ~ 9 月 9 日 (水) 授業研究 (相互授業参観) 期間 II [中 期] ・ 1 1 月 2 日 (月) ~ 1 1 月 2 0 日 (金) 授業研究 (相互授業参観) 期間 III [後 期] <p>○授業研究会 (3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月4日 (金) 6時間目 3年2組 平野大地教諭による「2次方程式」 ・ がんばる先生支援 授業研究会 他校より15名来校 11月18日 (水) 6時間目 1年2組味本大助講師による「少年の日の思い出」 2年1組松岡祐汰教諭による「平行線と角」 ・ がんばる先生支援 授業研究会 他校より10名来校 2月22日 (月) 6時間目 1年1組平井美沙教諭による「火山」 1年2組松尾若葉教諭による「Dairy Scene5道案内」 <p>○研究協議・講話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月4日 (金) 午後3時20分~「すべての子どもの学習権を保障するための手立て」 			

5	成果・課題	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な活動も含めて、つけたい力や指導観、単元の目標などに関連付けて、子ども一人ひとりが自分の力を発揮できる合理的配慮や授業における工夫を蓄積する。選択制のワークシート、ますを大きくしたノート、板書を書き写しやすくするツール、集中できる <p>《検証方法》</p> <p>学校評価アンケートにおいて「授業がわかりやすい」の問いに対して子どもたちから「あてはまる、だいたいあてはまる」等の肯定的回答を8割目指す。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>○学校評価アンケートを8月、12月の計2回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回学校評価アンケートにおいて「授業がわかりやすい」の問いに対する肯定的回答の割合 1年：84.7% 2年：83.6% 3年：92.9% 全体：87.9% ・第2回学校評価アンケートにおいて「授業がわかりやすい」の問いに対する肯定的回答の割合 1年：77.8% 2年：81.6% 3年：92.7% 全体：85.0% <p>【見込まれる成果2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業において、隣の子ともとのペア学習、3～4人程度の小集団や生活班を活用したグループ学習、課題別の学習グループの形成など、学び合う学習形態を工夫する。話し合いの仕方や相手を尊重した言葉かけの方法を指導していき、協働的な学習の進め方を身に付 <p>《検証方法》</p> <p>学校評価アンケートの「自分には良いところがあると思いますか。」問いに対して肯定的回答を7割以上を目指す。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>○学校評価アンケートを8月、12月の計2回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回学校評価アンケートにおいて「自分には良いところがあると思いますか」の問いに対する肯定的回答の割合 1年：78.8% 2年：68.7% 3年：66.6% 全体：71.2% ・第2回学校評価アンケートにおいて「自分には良いところがありますか」の問いに対する肯定的回答の割合 1年：87.0% 2年：78.4% 3年：73.1% 全体：78.6% <p>【見込まれる成果3】</p> <p>総合的な学習の時間、学校行事、学年行事、学級活動において授業で学んだことを活かし、課題や探究をグループやペアで取り組むことにより「学ぶ楽しさ」を育成する。</p> <p>《検証方法》</p> <p>学校評価アンケートにおいて「先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う」の問いに対して</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>○学校評価アンケートを8月、12月の計2回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回学校評価アンケートにおいて「先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う」の問いに対する肯定的回答の割合 1年：82.7% 2年：76.2% 3年：85.7% 全体：81.7% ・第2回学校評価アンケートにおいて「先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う」の問いに対する肯定的回答の割合 1年：88.9% 2年：80.0% 3年：93.9% 全体：88.1% <p>【見込まれる成果4】</p> <p>見込まれる成果2・3の取り組みで他者との協働を行うことで一人ひとりを大切にする心を育み、すべての生徒の居場所を感じられ、生徒同士が一人ひとりつながれるようになる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>学校評価アンケートにおいて「学校は一人ひとりの違いを認め合い、個性を尊重し合う集団になっている」の問いに対して「あてはまる」「だいたいあてはまる」と肯定的回答を</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>○学校評価アンケートを8月、12月の計2回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回学校評価アンケートにおいて「学校は一人ひとりの違いを認め合い、個性を尊重し合う集団になっている」の問いに対する肯定的回答の割合 1年：75.0% 2年：88.4% 3年：73.6% 全体：78.4% ・第2回学校評価アンケートにおいて「学校は一人ひとりの違いを認め合い、個性を尊重し合う集団になっている」の問いに対する肯定的回答の割合 1年：88.9% 2年：80.0% 3年：93.9% 全体：88.1%
---	-------	--

5	成果・課題	<p>【見込まれる成果 5】</p> <p>自ら主体的に物事に取り組む、自分の気持ちをコントロールする、他者とコミュニケーションが取れる、自分に自信を持つことができる生徒を育てる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>学校評価アンケートにおいて「いじめや暴力のない学校である」の問いに対して「あてはまる」「だいたいあてはまる」と肯定的回答を答える割合を8割以上を目指す。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>○学校評価アンケートを8月、12月の計2回実施</p> <p>・第1回学校評価アンケートにおいて「いじめや暴力のない学校である」の問いに対する肯定的回答の割合</p> <p>1年：86.5% 2年：83.6% 3年：91.6% 全体：87.4%</p> <p>・第2回学校評価アンケートにおいて「いじめや暴力のない学校である」の問いに対する肯定的回答の割合</p> <p>1年：90.8% 2年：84.6% 3年：90.3% 全体：88.5%</p>			
		<p>【見込まれる成果 6】</p> <p>新学習指導要領に明記されている育成すべき「生きる力」</p> <p>①生きて働く「知識・技能」の習得</p> <p>②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成</p> <p>《検証方法》</p> <p>学校評価アンケートにおいて「自分には良いところがある」「将来の夢や目標を持っている」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」の各問いに対して「あ</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>○学校評価アンケートを8月、12月の計2回実施</p> <p>学校評価アンケートにおいて「自分には良いところがある」「将来の夢や目標を持っている」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」の問いに対して肯定的回答の割合は「自分には良いところがある」は見込まれる成果2で前述済み。</p> <p>・第1回学校評価アンケートにおいて「将来の夢や目標を持っている」の問いに対する肯定的回答の割合</p> <p>1年：69.2% 2年：76.1% 3年：67.8% 全体：70.2%</p>			
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	<p>【研究全体を通じた成果と課題】 具体的に記載してください。</p> <p>令和2年度は「インクルーシブ教育の視点を見失わない学級・学年集団づくりとわかる・学び合う授業づくり」の研修テーマの2年目として「深化」の1年と位置づけました。すべての子どもたちの学びを保障するために「わかる授業」づくりについて昨年度から取り組んで参りました。しかし、「学力向上」につながらないことを振り返り、今年度は「長吉中学生5原則」を定め、5原則に該当する「非認知能力」の育成に取り組み、「学びに向かう力の育成」に努めました。</p> <p>《令和2年度の取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校集会時の校長講話を通して「ふだん力」を培う。 ・授業、行事等において振り返りの実施。 ・岡山大学准教授中山芳一先生を招聘し、「非認知能力」の概念を研修。 ・学年、教科、領域においてグランドデザインを描き、長吉中学校の教育課程を作成。 <p>《課題》</p>			
		<p>《代表校園長の総評》</p> <p>昨年度に引き続き、がんばる先生支援事業にご指定をいただきましてありがとうございました。本校の研究テーマについて「深化」となる2年目、すべての子どもが授業での居場所を感じられる授業の構築を目指し、また、年3回の授業研究会・研究協議を通して、教員の同僚性を育みながら、個々に主体的に授業の向上へ取り組みました。本校の複雑な家族・家庭環境に起因する「心の荒れ」をもつ子どもの学力をどう保障していくかという課題解決のため、子どもの「非認知能力」を高めることに注力し、岡山大学の中山芳一先生を招聘してその必要性和実践をご教授いただきました。その結果、それぞれ教員が積極的に自</p>			
		研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。			
		日程	令和 2 年 11 月 18 日	参加者数	約 45 名
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	場所	大阪市立長吉中学校2年1組教室、多目的室		
		備考	令和3年2月22日（月）授業研究会を実施した。		